

平成30年度

事業報告書

(自) 平成30年 4月 1日

(至) 平成31年 3月31日

〒452-0962

愛知県清須市春日新町95番地

社会福祉法人西春日井福祉会
理事長 今村 達雄

平成30年度西春日井福祉会本部事業報告書

1 法人運営に関する会議の開催

- (1) 理事会 5回 定款の改正、定款改正の取下げ、事業報告及び決算報告、事業計画及び予算、補正予算、施設整備及び契約に関する事項、規則規程の改正、外国人技能実習生の受入れ
- (2) 評議員会 2回 定款の改正、定款改正の取下げ、事業報告及び決算報告、施設整備に関する事項、外国人技能実習生の受入れ
- (3) 指名審査委員会 4回 施設整備及び契約の仕様書、契約方法、業者選定に関する事項
- (4) 施設長会議
 - ① 定例会 12回 (月次状況確認、法人統一事項確認、事業運営における情報共有)
 - ② 検討会 11回 (人財確保策、規則規程の改正、災害時の対応、外国人受入等)
- (5) 人事委員会 3回 (職員表彰者の選定、職員勤務評定結果の報告等)
- (6) 法人運営の適正に向けた会議の開催
 - ① 運営適正化委員会 (各業務内容の適正化、職種別役割分担の明確化等)
 - ② 法人の会議・委員会 (事務系会議、職種別会議、人材確保プロジェクト実行委員会、ロボット活用検討委員会、第6特養開設に伴う検討会等)

2 職員の雇用状況

- (1) 職員総数 648名 (正規374名、嘱託50名、パート224名)
- (2) 採用 55名 (正規26名、嘱託3名、パート26名)
 - ① 募集活動 (問い合わせ数324名、施設見学者110名、正規職員受験者40名)
 - ② 募集方法 (学校237校、紹介所4箇所、就職フェア24回、ホームページ、インターネット求人等)
- (3) 退職 58名 (正規24名、嘱託7名、パート27名)

3 人事異動

- (1) 昇任等 16名 (事務局長1名、施設長1名、係長級2名、主任等任命12名)
- (2) その他 52名 (身分換14名、配置換25名、職種換等9名、育休復帰4名)

4 職員処遇の充実

- (1) 昇給等 340名 (正規291名、嘱託5名、パート44名)
- (2) 職員表彰 31名 (永年勤続10年)
- (3) 福利厚生 11種 (リフレッシュ事業、自己啓発事業、健康増進に係る事業、職員給与積立事業、団体保険事業、職員親睦旅行、野球チーム等)

5 法人としての職員育成

- (1) 一般職員研修 14回 延384名 (人間力向上研修、メンタルケア研修、救命講習)
- (2) 階層別研修 29回 延408名 (新人職員、チューター職員、リーダー職員、役職者等)
- (3) 専門職員研修 23回 延198名 (専門的スキルを学ぶ基礎研修や職種別研修等)
- (4) 職員用25周年記念誌 (OUR PRIDE ONLY ONE) の配布

6 組織統治及び内部統制の充実

- (1) 理事長報告会の実施
 - 事業実績報告 2回 (5日間)、事業計画予算報告会 1回 (1日間)
- (2) 監事による監査及び検査の実施
 - ① 現金出納監査 6回 (偶数月) 現金預金の変動及び残高、利用者預り金の高額取引確認
 - ② その他監査 中間監査1回 (2日間)、決算監査1回 (2日間)
- (3) 会計監査人による監査の実施
 - ① 月例監査 10回 (4月、7月から毎月実施) ② 決算監査 1回 (3日間)
- (4) 法人内部監査室による施設実施状況の調査
 - 施設及び事業所の運営状況等確認 24回 (26日間)

7 その他の活動

- (1) 地域貢献活動 外部への出張講師等14件、DVD撮影協力2件、法人見学会受入2件
- (2) 広報活動 福祉会だよりの発行4回 (5月、8月、11月、2月)
- (3) 外国人技能実習関連の活動 ネパールへの出張4回 (延10名)

平成30年度特別養護老人ホーム五条の里事業報告書

事業運営

- 1 入所状況（定員80名 通年営業）
 - (1) 平均入所者数 79.3名（前年度 79.2名）
 - (2) 稼働率 99.1%（前年度 98.9%）
 - (3) 平均介護度 3.87（前年度 3.89）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 41回（西春吹奏楽団演奏会、夏祭り、介護の日等）
 - (2) 外出支援 32回（喫茶外出、徳川園、花フェスタ記念公園等）
 - (3) 食事関係 41回（バイキング、ゴールドランチ）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 43回 延べ人数62名
 - (2) 内部研修 24回（排泄ケア、認知症介護、事業方針説明会等）
 - (3) 各種会議・委員会 190回（フロア会議、業務改善会議、事故防止委員会等）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 担当者会議に家族と多職種の職員が出席することによって、入所者の情報共有と共通理解を深めることができました。また、看取り介護の入所者について、多目的室を活用しながら家族と人生の貴重な時間を過ごしていただき、よりよい看取りケアを実践しました。
 - (2) 入所者の個別機能訓練計画書に沿って、多職種による日常生活の動作訓練を実施し、残存機能の活用につなげることができました。入所者の介護度軽減となったケースでは、在宅復帰につなげることができました。
 - (3) 職員に感染症予防のための標準予防策を徹底する意識づけ、衛生面でも清潔な環境づくりに努めました。また、感染症発生時には、緊急感染会議を速やかに開催する等の取り組みをした結果、インフルエンザを最小限の発症に抑えることができました。
 - (4) 多くの外部研修に参加するとともに、研修参加者による報告会の開催回数を増やしたことによって、他職員も新しい情報を知る機会になり、知識の習得及びモチベーションアップにつなげることができました。
 - (5) ミールラウンドの実施について、入所者の適切な食形態や食事時の姿勢の確認等、多職種の専門的な知識を踏まえて検討することができました。また、充実した栄養マネジメント計画を作成し、体重の維持や姿勢保持等、食事環境の改善につながりました。
 - (6) 外出行事では、近隣の施設や喫茶店等に、家族と一緒に参加していただくことができました。特に徳川園や花フェスタ記念公園については、外出できる機会が少ないため、参加入所者及び家族に感動を味わってもらうとともに絆を深めていただけました。
 - (7) 医療機関と連携しながらスムーズに入退院を進めるとともに、入所者の安定した確保を踏まえ、入所者の退所から入所までを迅速かつ円滑に進めることができました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 地域に根ざした施設として、地域住民や地域のボランティア、各学校の学生の協力を得て、夏祭りや、介護の日、餅つき、お茶会等を開催しました。
 - (2) 外国人の介護福祉士実習生の受け入れや、管理栄養士実習生、社会福祉職場体験等の受け入れを積極的に行い、地域の福祉教育の貢献に努めました。
 - (3) 入所者の日々の生活の様子や施設の様々な活動をフェイスブック等で情報発信することで、施設への理解を深めていただくことができました。
 - (4) 行政からの虐待による緊急保護の依頼に応えるため、多職種と連携を図り、優先入所又は短期入所生活介護の利用へつなげることができました。なお、虐待を行った家族からの面会希望時には、市役所、地域包括支援センターと連携を図って対応しました。

平成30年度五条の里短期入所生活介護事業所事業報告書

事業運営

1 利用状況（定員20名 通年営業）

- (1) 平均利用者数 19.0名（前年度 20.5名）
- (2) 稼働率 94.9%（前年度 102.7%）
- (3) 平均介護度 2.97（前年度 2.89）

2 地域交流事業等

- (1) 行事関係 41回（西春吹奏楽団演奏会、夏祭り、介護の日等）
- (2) 食事関係 41回（バイキング、ゴールドランチ）

3 職員研修

- (1) 外部研修 43回 延べ人数62名
- (2) 内部研修 24回（排泄ケア、認知症介護、事業方針説明会等）
- (3) 各種会議・委員会 190回（フロア会議、業務改善会議、事故防止委員会等）

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) サービス担当者会議に参加して、利用者及び家族の利用に対する要望を把握するとともに、他の在宅サービス事業所との連携も図り、継続利用につなげました。
- (2) 利用者の身体機能にあわせて、多職種による日常生活の動作訓練を実施したことにより、適切な残存機能の活用につながり、継続した在宅生活の支援に努めました。
- (3) 職員に感染症予防のための標準予防策を徹底する意識づけ、衛生面でも清潔な環境づくりに努めました。また、感染症発生時には、緊急感染会議を速やかに開催する等の取り組みをした結果、インフルエンザを最小限の発症に抑えることができました。
- (4) 多くの外部研修に参加するとともに、研修参加者による報告会の開催回数を増やしたことによって、他職員も新しい情報を知る機会になり、知識の習得及びモチベーションアップにつなげることができました。
- (5) バイキングでは、鮎の炊き込みご飯や夏野菜等季節の食材を使用しました。また、新しい試みとして、天ぷら、さんま等の実演調理も加えて、利用者に季節感を味わってもらうことができ、充実した食事サービスの提供に努めることができました。
- (6) ひな祭りのお茶会を初めて開催しました。会場には段飾りのひな人形を用意して、お茶の先生にも協力を得ながら振る舞うことにより、参加利用者には、お祝い事を楽しみながら春を迎えてもらうことができました。
- (7) 医療機関や居宅介護支援事業所と連携及び調整を図り、利用者や家族の希望に沿った利用ができるように努めました。また、在宅での様子を聞き取って介護することにより、継続した在宅生活をするのができ、リピーターの確保につなげることができました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 地域に根ざした施設として、地域住民や地域のボランティア、各学校の学生の協力を得て、夏祭りや、介護の日、餅つき、お茶会等を開催しました。
- (2) 外国人の介護福祉士実習生の受け入れや、管理栄養士実習生、社会福祉職場体験等の受け入れを積極的に行い、地域の福祉教育の貢献に努めました。
- (3) 利用者日々の生活の様子や施設の様々な活動をフェイスブック等で情報発信することで、施設への理解を深めていただくことができました。
- (4) 行政からの虐待による緊急保護の依頼に応えるため、多職種と連携を図り、優先入所又は短期入所生活介護の利用へつなげることができました。なお、虐待を行った家族からの面会希望時には、市役所、地域包括支援センターと連携を図って対応しました。

平成30年度デイサービスセンター五条の里事業報告書

事業運営

1 利用状況（定員30名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 26.6名 | （前年度 27.3名） |
| (2) 稼働率 | 88.8% | （前年度 91.0%） |
| (3) 平均介護度 | 2.24 | （前年度 2.28） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|------------------------|
| (1) 行事関係 | 71回 | （デイ夏祭り、運動会、児童館との交流会等） |
| (2) 食事関係 | 54回 | （バイキング、鉄板料理、ゴールデンランチ等） |

3 職員研修

- | | | |
|--------------|------|---------------------------|
| (1) 外部研修 | 18回 | 延べ人数25名 |
| (2) 内部研修 | 10回 | （リスクマネジメント、介護技術、感染症予防研修等） |
| (3) 各種会議・委員会 | 124回 | （業務改善会議、デイサービス会議、パート会議等） |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 担当者会議にて利用者からの希望を聞き取り、少人数で実施できる大正琴の演奏や将棋、囲碁、クラブ活動を充実させたことにより、繰り返しデイサービスを利用していただくことができました。
- (2) 利用者が、身体機能の維持及び向上を図りながら在宅生活ができるように、リハビリ機器や歩行訓練等を個別に並行して少人数グループでも実施しました。その結果、仲間意識の高まりから、さらに自主的な取り組みにつながり、成果を出すことができました。
- (3) 毎日の送迎においては、送迎業務に関わる全職員でヒヤリマップ内の危険箇所の確認を行い、安全運転を確保することができました。
- (4) 利用者の体調管理においては、うがい、手洗い等の啓発活動を行ったことにより、自発的に実践してもらうことができ、感染症予防を図ることができました。また、インフルエンザ対策として、利用者及びその家族へ予防接種を促し感染症防止に努めました。
- (5) 積極的に介護技術や感染予防、認知症等に関する外部研修に参加するとともに、研修参加者が研修内容をデイサービス会議で発表するよう努め、専門知識や技術習得について理解を深めました。
- (6) 食を五感で味わってもらうため、夏季には、鮎の炊き込みご飯や夏野菜、冬季には、さんまやカニの茶わん蒸し等、季節毎の食材をメインにした魅力あるバイキングを提供するよう努めました。
- (7) 居宅介護支援事業所への訪問時に、担当利用者の詳細な情報を伝えることによって、ケアマネジャーからの信頼を得られました。特に五条祭では、ケアマネジャー及び家族を招待して利用者主体の演目や作品を披露し、利用中の様子を知っていただけました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 地域に根ざした施設として、ボランティアの受け入れを積極的に行うとともに、定期的に鍛冶ヶ色児童館と世代間交流をすることによって、高齢者の生きがいに寄与できるよう努めました。
- (2) 外国人の介護福祉士実習生の受け入れや、管理栄養士実習生、社会福祉職場体験等の受け入れを積極的に行い、地域の福祉教育の貢献に努めました。
- (3) 利用者の日々の生活の様子や施設の様々な活動をフェイスブック等で情報発信することで、施設への理解を深めていただくことができました。
- (4) 行政からの虐待による緊急保護の依頼に応えるため、速やかな利用に結び付け、日中はデイサービスでの生活とし、家族支援にもつなげました。利用後も、適宜、地域包括支援センター、ケアマネジャーと身体的虐待の解決に向けたケース会議を開催しています。

平成30年度特別養護老人ホームあいせの里事業報告書

事業運営

1 入所状況（定員80名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均入所者数 | 79.1名 | （前年度 78.6名） |
| (2) 稼働率 | 98.9% | （前年度 98.3%） |
| (3) 平均介護度 | 3.91 | （前年度 3.84） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|-------------------------|
| (1) 行事関係 | 38回 | （福祉カフェ、ボランティア感謝祭、福祉教室等） |
| (2) 外出支援 | 16回 | （いちご狩り、ショッピング、花フェスタ等） |
| (3) 食事関係 | 63回 | （バイキング、ビアガーデン、もちつき大会等） |

3 職員研修

- | | | |
|--------------|------|---------------------------|
| (1) 外部研修 | 64回 | 延べ人数155名 |
| (2) 内部研修 | 37回 | （リスクマネジメント、ターミナルケア、喀痰吸引等） |
| (3) 各種会議・委員会 | 240回 | （事故防止委員会、感染対策委員会、ユニット会議等） |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 入所者の状態に合わせてケアプランを適宜更新し、入所者本位のサービス提供に努めました。看取り対応中の入所者、家族の「自宅で親族との時間を過ごしたい」という要望に対し、多職種で協力して計画を立て実現につなげることができました。
- (2) 花見やいちご狩り等、季節に応じた外出企画や、入所者が楽しみにしているおやつ作り、お茶会等の施設内イベントも計画通り行い、メリハリのある生活を送ることができるよう支援しました。
- (3) モーニング、バイキングを計画通り実施することができました。特にバイキングでは、入所者からの要望を毎回取り入れ、旬の食材を使用したメニューとすることで、「食」を楽しんでいただけるよう努めました。
- (4) 各種会議、委員会を計画通り開催し、入所者の処遇や業務の内容について話し合い、適宜改善を図ることで、より良いサービスが提供できるよう努めました。
- (5) 外部研修には、各職種の職員が積極的に参加し、得た知識や技能を施設内にフィードバックするとともに、施設内でも研修を毎月開催することで、より多くの職員に学びの場を設け、施設全体で現場力向上を図りました。
- (6) 近隣病院や地域包括支援センター等、関連機関と連携し情報共有することで、在宅の生活困窮者を優先的に受け入れました。また、隔月で開催している入所選考委員会、臨時の判定会議において入退所を適切かつ迅速に進めることにより、地域の入所待機者の減少に努めました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 福祉カフェを毎月開催し、毎回多くの地域住民に参加していただくことができました。施設のノウハウを駆使したさまざまなプログラムの他、介護相談や座談会を通して、親しみのある相談しやすい施設づくりに努めました。
- (2) 地域と共生する施設づくりのため、地域のボランティア、学生と協同で、夏祭りを開催しました。また、今年度初の試みとして、日頃お世話になっているボランティアに対して感謝祭を企画し、出し物や手作りのプレゼント等でおもてなしを入所者、職員が協力して行うことで、施設と地域の絆を深めることができました。
- (3) 介護福祉士、社会福祉士、職場体験等の実習を積極的に受け入れる他、児童に対して行う福祉教室では師勝東小学校に加えて、今年度新たに豊山町の新栄小学校と協同で行う等、次世代を担う福祉人材の育成に努めました。
- (4) 入所者の日常生活や施設内行事の様子を福祉会だよりやフェイスブックで紹介し、家族、ボランティア、地域住民等に、施設の取り組みを広く理解していただくよう努めました。

平成30年度あいせの里短期入所生活介護事業所事業報告書

事業運営

1 利用状況（定員20名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 19.2名 | （前年度 19.5名） |
| (2) 稼働率 | 96.1% | （前年度 97.6%） |
| (3) 平均介護度 | 2.94 | （前年度 2.79） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|-------------------------|
| (1) 行事関係 | 41回 | （福祉カフェ、ボランティア感謝祭、福祉教室等） |
| (2) 食事関係 | 63回 | （バイキング、ビアガーデン、もちつき大会等） |

3 職員研修

- | | | |
|--------------|------|----------------------------|
| (1) 外部研修 | 66回 | 延べ人数157名 |
| (2) 内部研修 | 37回 | （リスクマネジメント、ターミナルケア、喀痰吸引等） |
| (3) 各種会議・委員会 | 251回 | （ショートステイ委員会、ユニット会議、排泄委員会等） |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) ショートステイ委員会を定期的開催し、利用者の日々の心身状況に合わせてサービス内容の見直しを行い、良質なサービス提供に努めました。ショートステイ利用中の課題について、多職種と連携し迅速に対応することで、病気の早期発見や食欲の改善がみられる等、利用者や家族から信頼される施設づくりに努めました。
- (2) 夏祭りや運動会等の施設内行事やさまざまなレクリエーションに参加し、楽しくメリハリのある生活を送ることができました。また、機能訓練を兼ねた地域各所への外出では、施設内での機能訓練に意欲的ではない利用者が、ご自身で立ち上がりバラを見学する姿が見られる等、心身機能の維持や活性化を図ることができました。
- (3) モーニング、バイキングを計画通り実施することができました。特にバイキングでは、利用者からの要望を毎回取り入れ、旬の食材を使用したメニューとすることで、「食」を楽しんでいただけるよう努めました。
- (4) 居宅支援事業所等への訪問以外にも、空室状況を電話連絡で随時伝えることにより、新規利用者を獲得することができました。また、医療依存度の高い利用者や、緊急性のある利用者多職種と連携し積極的に受け入れることで、セーフティーネットの役割を継続することができました。
- (5) 外部研修には、各職種の職員が積極的に参加し、得た知識や技能を施設内にフィードバックするとともに、施設内でも研修を毎月開催することで、より多くの職員に学びの場を設け、施設全体で現場力向上を図りました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 福祉カフェを毎月開催し、毎回多くの地域住民に参加していただくことができました。施設のノウハウを駆使したさまざまなプログラムの他、介護相談や座談会を通して、親しみのある相談しやすい施設づくりに努めました。
- (2) 地域と共生する施設づくりのため、地域のボランティア、学生と協同で、夏祭りを開催しました。また、今年度初の試みとして、日頃お世話になっているボランティアに対して感謝祭を企画し、出し物や手作りのプレゼント等でおもてなしを利用者、職員が協力して行うことで、施設と地域の絆を深めることができました。
- (3) 介護福祉士、社会福祉士、職場体験等の実習を積極的に受け入れる他、児童に対して行う福祉教室では師勝東小学校に加えて、今年度新たに豊山町の新栄小学校と協同で行う等、次世代を担う福祉人材の育成に努めました。
- (4) 利用者の日常生活や施設内行事の様子を福祉会だよりやフェイスブックで紹介し、家族、ボランティア、地域住民等に、施設の取り組みを広く理解していただくよう努めました。

平成30年度老人デイサービスセンターあいせの里事業報告書

事業運営

1 利用状況（定員30名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 28.0名 | （前年度 26.4名） |
| (2) 稼働率 | 93.4% | （前年度 88.0%） |
| (3) 平均介護度 | 2.22 | （前年度 2.15） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|----------------------|
| (1) 行事関係 | 53回 | （夏祭り、法人合同イベント、謝恩会等） |
| (2) 食事関係 | 47回 | （季節御膳弁当、バイキング、実演調理等） |

3 職員研修

- | | | |
|--------------|-----|----------------------------|
| (1) 外部研修 | 14回 | 延べ人数14名 |
| (2) 内部研修 | 18回 | （認知症ケア、感染症予防、事故防止等） |
| (3) 各種会議・委員会 | 72回 | （デイサービス会議、感染対策委員会、運営連絡会議等） |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 音楽療法、回想療法、創作活動等の選択レクリエーションの充実に努めました。音楽療法では年度末に開催する発表会に向けて、年間を通じて楽器演奏の練習を行うことで、利用者の活動意欲の向上につなげることができました。
- (2) ヒヤリハットの集計を行い、件数の多かった事例に対してデイサービス会議内で報告し、職員間で共有することにより事故防止に努めることができました。運転業務を行う職員同士で危険な送迎箇所を共有し、安心安全な送迎を行うことができました。
- (3) お花見等の外出行事も含めて、上下肢の筋力を維持するための機能訓練を実施することで、利用者の継続した在宅生活の支援に努めました。また、昼食前の口腔体操や昼食後に職員の付き添いで口腔ケアを実施し、口腔内の清潔を保つことができました。
- (4) 利用者の目の前で、ぶりの解体を行う実演調理、旬の食材を活かした季節御膳弁当及びバイキングを実施することで、楽しく豊かな食事サービスを提供することができました。
- (5) デイ会議で利用者個々の対応についての情報交換に加えて、職員が講師となり、認知症や感染症予防等の勉強会を実施し、知識及び技術の向上に努めました。
- (6) 居宅介護支援事業所への訪問等を通じて、デイサービスの取り組み内容や空き状況を伝え、連携を密に図ることで稼働率の向上に努めました。また、担当者会議の資料としてデイサービスでの利用者の様子をリーフレットにして提供することで、家族やケアマネジャーとの信頼関係強化に努めました。
- (7) 地震災害等の発生を想定した避難訓練では、職員だけでなく利用者にも参加をしていただき、防災に対する意識を高めることができました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 福祉カフェを毎月開催し、毎回多くの地域住民に参加していただくことができました。施設のノウハウを駆使したさまざまなプログラムの他、介護相談や座談会を通して、親しみのある相談しやすい施設づくりに努めました。
- (2) 地域と共生する施設づくりのため、地域のボランティア、学生と協同で、夏祭りを開催しました。また、今年度初の試みとして、日頃お世話になっているボランティアに対して感謝祭を企画し、出し物や手作りのプレゼント等でおもてなしを利用者、職員が協力して行うことで、施設と地域の絆を深めることができました。
- (3) 介護福祉士、社会福祉士、職場体験等の実習を積極的に受け入れる他、児童に対して行う福祉教室では師勝東小学校に加えて、今年度新たに豊山町の新栄小学校と協同で行う等、次世代を担う福祉人材の育成に努めました。
- (4) デイサービスの取り組みや利用者の様子を福祉会だよりやフェイスブックで紹介し、家族、ボランティア、地域住民等に、施設の取り組みを広く理解していただくよう努めました。

平成30年度ケアハウスあいせの里事業報告書

事業運営

- 1 入所状況（定員30名 通年営業）
 - (1) 平均入所者数 28.5名（前年度 29.3名）
 - (2) 稼働率 95.1%（前年度 97.6%）
 - (3) 要介護者数 12名（前年度 8名）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 37回（誕生日会、お茶会、ボランティア演奏会等）
 - (2) 外出支援 93回（買い物、季節外出、喫茶外出等）
 - (3) 食事関係 27回（バイキング、モーニング、敬老祝御膳等）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 4回 延べ人数4名
 - (2) 内部研修 7回（防災、感染症予防、食中毒防止等）
 - (3) 各種会議・委員会 80回（運営連絡会議、衛生委員会、福祉カフェ会議等）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 入所者の心身の状況に合わせて、要介護認定や認定区分変更の申請手続きを、家族及び居宅支援事業所と連携し支援しました。また、日常の心身状況をサービス担当者会議等でケアマネジャーや家族に伝え、必要な在宅介護サービスを提案することで、入所者の自立した日常生活の維持に努めました。
 - (2) 花見や初詣等の季節外出、地域主催のお祭りや地域の楽団の演奏会等に参加する中で、施設外の方々と交流するとともに、入所者の日常の生活の中で楽しみや潤いを提供することで、生活の質の向上に努めました。
 - (3) 緊急時に迅速に情報提供できるよう、救急医療情報ケースを作成して入所者の居室に設置し、入所者の緊急搬送や体調異変、感染症時の受診付添いを家族に代わり行うことで、疾病への早期対応に努めました。また、日常の見守り、健康相談で入所者の体調変化及び異変等の健康状態の把握に努めました。
 - (4) 歯科衛生士による口腔ケア指導や栄養、運動、感染症予防、認知症予防をテーマにした健康教室を北名古屋市に依頼して開催し、入所者自身が健康で自立した生活を続けるための意識の向上に努めました。
 - (5) 入所申込者に対する現況調査を実施し、早期の入所希望者を把握することで、空室時の速やかな入所に努めました。また、入所希望者の施設見学時や入所の問合せに対し、施設の取り組みや入所条件、費用、サービスの特徴を丁寧に説明し、入所待機者の確保に努めました。
 - (6) 豊山町防災安全課、豊山町消防団と連携して避難訓練を実施し、避難方法及び経路の確認、災害時に地域と施設が果たす役割について意見交換を行い、災害時の地域協力意識の向上に努めました。また、ベランダの定期点検と整理整頓を行い、非常時の避難経路確保に努めました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 福祉カフェを毎月開催し、毎回多くの地域住民に参加していただくことができました。施設のノウハウを駆使したさまざまなプログラムの他、介護相談や座談会を通して、親しみのある相談しやすい施設づくりに努めました。
 - (2) 地域と共生する施設づくりのため、地域のボランティア、学生と協同で、夏祭りを開催しました。また、今年度初の試みとして、日頃お世話になっているボランティアに対して感謝祭を企画し、出し物や手作りのプレゼント等でおもてなしを入所者、職員が協力して行うことで、施設と地域の絆を深めることができました。
 - (3) 入所者の日常生活や施設内行事の様子を福祉会だよりやフェイスブックで紹介し、家族、ボランティア、地域住民等に、施設の取り組みを広く理解していただくよう努めました。

平成30年度特別養護老人ホームペガサス春日事業報告書

事業運営

1 入所状況（定員100名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均入所者数 | 98.4名 | （前年度 97.7名） |
| (2) 稼働率 | 98.4% | （前年度 97.7%） |
| (3) 平均介護度 | 3.99 | （前年度 3.93） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|----------------------|
| (1) 行事関係 | 58回 | （夏祭り、家族交流会、餅つき等） |
| (2) 外出支援 | 12回 | （金シャチ横丁、海津温泉、花見等） |
| (3) 食事関係 | 30回 | （バイキング、モーニング、おやつ作り等） |

3 職員研修

- | | | |
|--------------|------|--------------------------|
| (1) 外部研修 | 59回 | 延べ人数91名 |
| (2) 内部研修 | 29回 | （介護技術、終末期ケア、スーパービジョン等） |
| (3) 各種会議・委員会 | 203回 | （調整会議、事故防止委員会、感染症予防委員会等） |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 入所者個々に自分らしい生活を送っていただくため、入所者や家族の意向をふまえて計画書を作成し、各職種が連携し一人ひとりの残存機能を活かした介護支援に努めました。
- (2) 入所者と家族との絆をさらに深めていただくために、家族交流会を開催して、ゆったりとした時間を家族と過ごすとともに、職員から日々の様子を伝えたり、家族から要望を伺うことで、より良いケアへつなげることができました。
- (3) 認知機能や摂食、嚥下能力の低下により経口摂取が難しくなっている入所者に対し、管理栄養士をはじめ多職種共同で食事摂取状態を観察のうえ、食事形態等を検討し、安全に必要な栄養を摂取できるよう、支援の充実を図りました。また、旬の食材を使用してバイキングを開催し、目で見て楽しく季節を感じられる食事を提供することができました。
- (4) 入所者の状態変化にいち早く気づき、速やかに病院を受診したことで、重症化を未然に防ぎ、施設での生活を継続して送ることができました。感染時期には、面会者の方にも理解を求め、日々の感染対応強化に努め、入所者、職員へのまん延を最小限に抑えることができました。
- (5) 良質な福祉サービスを提供するため、職員自ら積極的に外部研修へ参加することにより、一人ひとりのモチベーションが向上しました。他専門職が施設内研修の講師を務め、緊急時の対応を再確認し、迅速な行動、判断が出来るように努めました。
- (6) 施設全体での避難訓練に参加して、災害時にも適切に避難できるように努めました。また、実際の災害時を想定し、非常用物品の保管場所を各フロア保管へ変更し、迅速な対応が取れるよう改善しました。
- (7) 清須市文化協会の協力を得て、会員が作成した絵画、水彩画、写真を各フロアに展示し、潤いとやすらぎのある環境を創り出すことができました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 福祉カフェでは、気軽に立ち寄れる開かれた施設となるよう努めることができました。市内の福祉カフェ連絡会に参加し、運営方法や果たすべき役割について情報交換を行うことができました。
- (2) 夏祭りでは例年の模擬店、盆踊り、花火に加え、地域の方々による演舞の披露で会場が盛り上がり、家族、地域の方々に楽しんでいただくことができました。
- (3) 介護実習及び地域の中学校の職場体験を積極的に受け入れ、高齢者福祉や認知症について理解を深めていただき、福祉教育の推進に努めました。
- (4) フェイスブックや福祉会だよりを活用して、日々の活動の様子を紹介することにより、家族や地域の方々に事業活動の周知、理解を深めていただくことができました。

平成30年度ペガサス春日短期入所生活介護事業所事業報告書

事業運営

- 1 利用状況（定員10名 通年営業）
 - (1) 平均利用者数 9.1名（前年度 10.2名）
 - (2) 稼働率 90.5%（前年度 101.7%）
 - (3) 平均介護度 2.79（前年度 3.11）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 44回（夏祭り、清須市内各保育園来所、お茶会等）
 - (2) 食事関係 29回（バイキング、モーニング、おやつ作り等）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 59回 延べ人数91名
 - (2) 内部研修 29回（介護技術、終末期ケア、スーパービジョン等）
 - (3) 各種会議・委員会 203回（調整会議、事故防止委員会、感染症予防委員会等）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 新規や更新に伴う担当者会議において、利用者の希望や心身の状況、生活環境を確認し、その状況を介護員へ伝え支援に活かすことで、安心して利用していただけることができました。また、居宅介護支援事業所と密に連携をとることで、新規利用者の獲得とともに、継続利用者の状態変化の状況を細かく伝え、心身の状態安定につなげることができました。
 - (2) 利用者個々に合ったレクリエーションを毎月実施することで、利用中の方々の心身機能の維持に努めました。
 - (3) 利用者の状態変化にいち早く気づき、早期に家族、ケアマネへ伝え、速やかに病院を受診していただくことで、継続して在宅生活を送ることができるよう努めました。
 - (4) 利用者個々に合った食事形態や姿勢を検討することで、安全に必要な栄養を摂取できるよう努めました。また、旬の食材を使用してバイキングを開催することで、目で見えて楽しく季節を感じられる食事を提供することができました。
 - (5) 良質な福祉サービスを提供するため、職員自ら積極的に外部研修へ参加することにより、一人ひとりのモチベーションが向上しました。他専門職が施設内研修の講師を務め、緊急時の対応を再確認し、迅速な行動、判断が出来るように努めました。
 - (6) 施設全体での避難訓練に参加して、災害時にも適切に避難できるように努めました。また、実際の災害時を想定し、非常用物品の保管場所を各フロア保管へ変更し迅速な対応が取れるよう改善をしました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 夏祭りでは例年の模擬店、盆踊り、花火に加え、地域の方々による演舞の披露で会場が盛り上がり、利用者、家族、地域の方々に楽しんでいただくことができました。
 - (2) 介護実習及び地域の中学校の職場体験を積極的に受け入れ、高齢者福祉や認知症について理解を深めていただき、福祉教育の推進に努めました。
 - (3) 他事業所を併用されている利用者のケア方法、状態確認を図るため、居宅介護支援事業所や他事業所と情報交換を行い、最善な方法で支援することができました。
 - (4) フェイスブックや福祉会だよりを活用して、日々の活動の様子を紹介することにより、利用者家族や地域の方々に事業活動の周知、理解を深めていただくことができました。

平成30年度老人デイサービスセンターペガサス春日事業報告書

事業運営

1 利用状況（定員30名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 26.6名 | （前年度 27.1名） |
| (2) 稼働率 | 88.7% | （前年度 90.2%） |
| (3) 平均介護度 | 2.11 | （前年度 2.07） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|-------------------------|
| (1) 行事関係 | 70回 | （法人合同行事、デイサービス文化祭、感謝祭等） |
| (2) 食事関係 | 40回 | （バイキング、バーベキュー、料理実演等） |

3 職員研修

- | | | |
|--------------|-----|--------------------------|
| (1) 外部研修 | 12回 | 延べ人数12名 |
| (2) 内部研修 | 32回 | （接遇、チームケア、デイサービスのしくみ等） |
| (3) 各種会議・委員会 | 80回 | （調整会議、デイサービス会議、事故防止委員会等） |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 新規や更新に伴う担当者会議において、利用者の希望や心身の状況、生活環境を確認し、通所介護計画書の内容に盛り込むことができました。また、新たに少人数選択制のレクリエーションとしてGO!GO!プログラムを導入し、活動の定着化により、利用者の生活意欲や活動意欲の向上を図ることができました。
- (2) 健康に関する啓発活動として、健康だよりの発行や看護師による健康教室を定期的に開催し、健康管理や口腔ケアの大切さについて理解を深めていただくことができました。また、口腔嚥下機能に変化のある利用者に対して、家族やケアマネと相談し安全な食事を提供できるよう、随時食事形態の変更や提供方法の工夫等の対応をとることができました。
- (3) 利用者の身体状況、生活環境に応じた機能訓練の継続的な取り組みや自宅での手軽な機能訓練の提案により、心身機能の維持、向上を図ることができました。また、ボランティアの協力のもと、季節に応じた外出支援を実施し、屋外での機能訓練を楽しんでいただけました。
- (4) デイ会議において新規利用者や既存利用者の対応方法について検討したことにより、職員間での情報共有ができ、統一したサービス提供ができました。また、テーマごとの意見交換会の学習や、デイサービスの法的根拠及び各職種の役割を再認識する機会を設けたことにより、サービスの適正化と質の向上を図ることができました。
- (5) お試し利用後や利用者の状況において、日頃のケアの中で変化があった場合には居宅介護支援事業所と迅速な報連相を行うことにより、信頼関係が深まり多くの新規利用者を獲得することができました。また、事業所規模に適した受け入れや取得加算の要件確認については、毎月の管理を行い適正な施設運営を行うことができました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 介護福祉士の実習を受け入れ日毎にカンファレンスを行うことにより、高齢者や認知症についての認識を深めていただく等福祉教育の推進に努めました。また、市内の福祉カフェ連絡会に参加し、運営方法や果たすべき役割について情報交換を行うことができました。
- (2) 月刊パンフレットやフェイスブックを積極的に活用し、様々な行事情報や施設全体の取り組みを紹介することにより、利用者家族、地域住民、居宅介護支援事業所等に情報発信することができました。また、取得加算に対して具体的取り組みを示せるよう新たにチラシを作成し、目的を持って安心して利用いただけるよう努めることができました。
- (3) 他事業所を併用されている利用者のケア方法、状態確認において、居宅介護支援事業所や他事業所との情報交換を積極的に働きかけ、最善な方法で支援できました。

平成30年度グループホームペガサス春日事業報告書

事業運営

1 入所状況（定員9名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均入所者数 | 9.0名 | （前年度 8.9名） |
| (2) 稼働率 | 99.8% | （前年度 98.3%） |
| (3) 平均介護度 | 1.50 | （前年度 1.53） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|----------------------|
| (1) 行事関係 | 27回 | （夏祭、歌謡ショー、家族交流会等） |
| (2) 外出支援 | 12回 | （いちご狩り、喫茶外出、花見外出等） |
| (3) 食事関係 | 15回 | （おやつ作り、割子弁当、選択メニュー等） |

3 職員研修

- | | | |
|--------------|-----|------------------------|
| (1) 外部研修 | 10回 | 延べ人数10名 |
| (2) 内部研修 | 9回 | （事故防止研修、衛生講習会、腰痛予防） |
| (3) 各種会議・委員会 | 69回 | （調整会議、衛生委員会、感染症予防委員会等） |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 入所者個々の能力に応じて、在宅生活と同様の炊事や清掃等を職員とともに行うことで、家庭的な生活を実感していただきました。また、入所者の身体状況等をホーム会議で話し合い、対応案を作成して来設時に家族へ報告、意見をいただき処遇計画に反映することで、適切なサービス提供に努めました。
- (2) いちご狩り、梅、桜の花見へ出かける等、五感で季節を感じていただくことができました。また、外出時の写真を掲示し話題づくりを行うことができました。
- (3) 家族へ、入所者との付き添い外出を積極的に働きかけ、家族団らんの時間を過ごすことができました。また、家族交流会を開催し日常の時間を家族と一緒に過ごし楽しむことができました。
- (4) ホーム内壁紙の全面張替えを行い、入所者が気持ちよく生活できる環境整備を行いました。
- (5) 施設外研修や施設内勉強会に参加して、職員の資質向上に努めることができました。また、研修で学んだ内容については、会議等で情報共有できるよう努めることができました。
- (6) 入所者の健康状態を把握するため、毎日バイタル測定を行うとともに、入所者が医療機関を受診する際には、家族に日頃の測定データをお伝えし、診断に役立ててもらうことができました。
- (7) 施設全体での避難訓練に参加して、災害時にも適切に避難できるように努めました。また、避難経路の確保のため整理整頓を常に意識することで、防災意識の高揚に努めました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 夏祭り、介護の日では、用意周な準備を行い、家族、地域の方々等に楽しんでいただくことができました。また、多くのボランティアの受け入れを行うことにより、地域との交流に努めました。
- (2) 新任教員の社会奉仕体験活動研修や介護実習生を受け入れ、認知症介護の現場を体験して理解を深めていただきました。
- (3) フェイスブックや福祉会だよりを活用して、日々の活動の様子を紹介することにより、家族や地域の方々には事業活動の周知、理解を深めていただくことができました。また、家族に対してかわら版を定期的に発行し、入所者個々の活動を伝えました。
- (4) 運営推進会議を定期的で開催し、事業活動の説明、率直な意見交換の他、入所者とともに昼食、おやつを召し上がっていただく等の機会を設けました。

平成30年度ケアはうすペガサス春日事業報告書

事業運営

1 入所状況（定員30名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均入所者数 | 28.8名 | （前年度 29.1名） |
| (2) 稼働率 | 95.9% | （前年度 96.9%） |
| (3) 要介護者 | 7名 | （前年度 10名） |

2 地域交流等行事

- | | | |
|-----------|------|---------------------|
| (1) 施設内行事 | 48回 | （つどいの会、夏祭り、運動会等） |
| (2) 外出支援等 | 136回 | （ショッピング、昼食外出、桜花見物等） |
| (3) 食事関係 | 33回 | （モーニング、バイキング、さんま祭等） |

3 職員研修

- | | | |
|--------------|-----|--------------------------|
| (1) 外部研修 | 9回 | 延べ人数9名 |
| (2) 内部研修 | 11回 | （施設内研修、施設内医療勉強会、リーダー研修等） |
| (3) 各種会議・委員会 | 77回 | （調整会議、ケアはうす会議、衛生委員会等） |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) ショッピング等の定期的な外出や入所者の要望を取り入れながらの昼食外出、桜花見、紫陽花見物等の季節を感じられる外出を企画実施することにより、心身ともにリフレッシュでき、生き生きと充実した生活が送れるよう支援することができました。特に昼食外出は、多くの入所者に参加していただける企画となりました。
- (2) 入所者一人ひとりが生活に潤いを持ち、個々の趣味や能力を発揮できるようクラブ活動を企画実施し、個々の強みを活かすことができる支援ができました。また、介護予防につながるレクリエーションを実施し、生き生きと充実した生活が送れるよう努めることができました。
- (3) 福祉職としての資質を向上し、入所者への自立支援、健康維持等の的確な支援ができるよう積極的に施設内や外部の研修に参加し、職員間での情報共有に努め、日々の入所者支援に活かすことができました。
- (4) 清須市内外の地域包括支援センターや居宅介護支援事業所と連携し、新規入所者を確保するよう努めることができました。また、指針、マニュアルの周知徹底を行うことにより、良質な福祉サービスを提供するための統一ができるよう努めました。
- (5) 行政にて行われる健康診断への参加や、定期的に健康相談、歯科相談を行うことにより、健康管理に対する意識向上や疾病の予防、早期発見につなげることができました。感染予防や発症時の初期対応方法等について、研修等に参加し職員への周知徹底をすることにより、感染予防に努めることができました。
- (6) 地元消防団と連携して災害時を想定した避難訓練を実施することにより、防災意識の向上につなげることができました。また、定期的な消防用設備の点検を行い、施設整備に努めることができました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 福祉カフェでは、気軽に立ち寄れる地域に根ざした開かれた施設となるよう努めることができました。小中学校福祉実践教室や地域で行われる福祉学習会に講師として参加し、児童や地域の方々に福祉に対する興味や理解を深めていただくことができました。
- (2) 入所者家族や地域社会へ事業活動内容を理解していただくために、フェイスブックの更新や福祉会だよりを積極的に発信することにより、活動内容を紹介し、効果的な広報活動を実施することができました。

平成30年度特別養護老人ホーム清洲の里事業報告書

事業運営

1 入所状況（定員80名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均入所者数 | 79.1名 | （前年度 78.8名） |
| (2) 稼働率 | 98.9% | （前年度 98.5%） |
| (3) 平均介護度 | 3.92 | （前年度 3.78） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|---------------------|
| (1) 行事関係 | 46回 | （夏祭り、保育園児来訪、家族交流会等） |
| (2) 外出関係 | 39回 | （ショッピング、喫茶外出、希望外出等） |
| (3) 食事関係 | 40回 | （バイキング、モーニング、ランチ会等） |

3 職員研修

- | | | |
|--------------|------|--------------------------|
| (1) 外部研修 | 41回 | 延べ人数60名 |
| (2) 内部研修 | 43回 | （緊急時の対応、事故防止、感染症・食中毒予防等） |
| (3) 各種会議・委員会 | 140回 | （リーダー会議、ユニット会議、行事委員会等） |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 施設サービス計画書は、日頃から入所者とコミュニケーションを多く取るとともに、面会やカンファレンスにおいて家族からの意向を反映し作成することができました。また、ユニット会議等で処遇について話し合い、入所者が楽しく安心して過ごせるようなサービス提供に努めました。
- (2) 健康管理では、多職種が連携して入所者の体調の変化を早期に発見し、適切な対応をすることができました。また、インフルエンザ等の感染がありましたが、その都度、緊急感染対応会議を開催し対応策を検討及び周知徹底することで、まん延防止に努めました。
- (3) おやつ作り等の食に関する行事を行い、作る楽しさや食べる楽しさを感じていただくことができました。また、園児来訪やお茶会等の全体行事ではボランティアの協力のもと、日々の生活の中で楽しさを持っていただくことができました。さらには夏祭りや家族交流会では、家族の方と一緒に過ごせる時間を作ることができました。
- (4) 事故防止委員会では、ヒヤリハットによる事故防止活動と事故発生時の原因究明及び再発防止策等を検討しました。また、委員会活動はユニット会議と連携して検討結果等を全職員に周知することで、入所者に安心して生活していただくよう努めました。
- (5) ミールラウンドでは、多職種が連携して入所者に合った食事形態や提供方法を検討することで、個々の入所者に合わせた食事環境を提供することができました。また、季節感が味わえるようなバイキングやランチ会等の行事を開催し、入所者からも喜びの声を聞くことができました。
- (6) 外部研修では、職員の希望に合わせて参加できるように努め、介護に関する意識を変えることができました。また、施設内研修では、多くの職員が参加できるよう複数回開催する等、スキルアップに努めました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 地域のサロンへ講師を派遣し、福祉や介護に関する啓発活動に努めました。また、福祉カフェでは健康教室等催し物を定期開催し、多くの方に参加していただきました。
- (2) 介護福祉士、社会福祉士の実習、高校生ボランティアや中学校の職場体験を積極的に受け入れ、福祉教育に協力することができました。また、管理栄養士実習、教員初任者研修、教員福祉体験の受け入れも行いました。
- (3) フェイスブックや清洲の里だよりを通じて、施設の活動を広く知っていただけるように努めました。
- (4) 行政との連携を図り、地域の高齢者等のセーフティネットの役割を担う施設として、その機能を活かせるようにしました。

平成30年度期清洲の里短期入所生活介護事業所事業報告書

事業運営

1 利用状況（定員20名 通年営業）

- | | | | |
|------------|-------|------|--------|
| (1) 平均利用者数 | 18.8名 | （前年度 | 19.4名） |
| (2) 稼働率 | 94.1% | （前年度 | 97.0%） |
| (3) 平均介護度 | 3.00 | （前年度 | 3.07） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|---------------------|
| (1) 行事関係 | 46回 | （夏祭り、保育園児来訪、家族交流会等） |
| (2) 食事関係 | 40回 | （バイキング、モーニング、ランチ会等） |

3 職員研修

- | | | |
|--------------|------|--------------------------|
| (1) 外部研修 | 41回 | 延べ人数60名 |
| (2) 内部研修 | 43回 | （緊急時の対応、事故防止、感染症・食中毒予防等） |
| (3) 各種会議・委員会 | 140回 | （リーダー会議、ユニット会議、行事委員会等） |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 新規利用時の面接やカンファレンスは、可能な限り多職種が参加して、自宅での暮らしの継続に重点を置いたケアを実践することで、施設を安心して利用していただくことができました。
- (2) 感染症対策委員会を中心に感染予防の徹底に力を入れ、その対策に必要な物品や使用手順の見直しを行いました。感染症が発生した際には、緊急感染対応会議を開催しマニュアルに沿って対応策を検討し周知したことで、まん延防止につながりました。また、健康管理にも注意を払い、利用開始時にバイタル測定を徹底する等、早期発見と早期対応に努めました。
- (3) ユニット内でのおやつ作りや季節感が味わえるようなバイキング及びランチ会等を毎月開催する等、食の楽しみを感じていただけるよう努めました。
- (4) 事故防止委員会では、ヒヤリハットによる事故防止活動と事故発生時の原因究明及び再発防止策等を検討しました。また、委員会活動はユニット会議と連携して検討結果等を全職員に周知することで、利用者に安心して生活していただくよう努めました。
- (5) 居宅介護支援事業所へ部屋の空き状況、利用者状況等を発信し、利用者の確保に努めました。また、居宅介護事業所へこまめに情報交換を行うことで、信頼性の高いサービスに努め利用者の継続利用につなげることができました。
- (6) 外部研修では、職員の希望に合わせて参加できるように努め、介護に関する意識を変えることができました。また、施設内研修では、多くの職員が参加できるよう複数回開催する等、スキルアップに努めました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 地域のサロンへ講師を派遣し、福祉や介護に関する啓発活動に努めました。また、福祉カフェでは健康教室等催し物を定期開催し、多くの方に参加していただきました。
- (2) 介護福祉士、社会福祉士の実習、高校生ボランティアや中学校の職場体験を積極的に受け入れ、福祉教育に協力することができました。また、管理栄養士実習、教員初任者研修、教員福祉体験の受け入れも行いました。
- (3) フェイスブックや清洲の里だよりを通じて、施設の活動を広く知っていただけるよう努めました。
- (4) 行政との連携を図り、地域の高齢者等のセーフティーネットの役割を担う施設として、その機能を活かせるようにしました。

平成30年度特別養護老人ホーム平安の里事業報告書

事業運営

1 入所状況（定員96名 通年営業）

- (1) 平均入所者数 94.7名（前年度 93.9名）
- (2) 稼働率 98.6%（前年度 97.9%）
- (3) 平均介護度 3.88（前年度 3.84）

2 地域交流事業

- (1) 行事関係 28回（ユニット内行事、夏祭り、餅つき等）
- (2) 外出支援 42回（ショッピング、金シャチ横丁、ナゴヤドーム観戦等）
- (3) 食事関係 87回（うなぎ、出張回転寿司、ビアガーデン等）

3 職員研修

- (1) 外部研修 31回 延べ人数26名
- (2) 内部研修 16回（身体拘束防止、感染予防、事故防止等）
- (3) 各種会議・委員会 198回（運営連絡会議、リーダー会議、ユニット会議等）

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) ユニット職員が中心となって、入所されるまでの生活習慣や大切にされてきたこだわり等を、面会時や家族交流会で家族から情報収集を行い、施設での生活に取り入れてユニットケアの充実を図りました。
- (2) 花見や地域で開催される祭り等へ出かけたり、施設内で季節の行事を開催して、四季の移り変わりを感じてもらえるよう努めました。また、個人の希望で野球観戦、名古屋城の散策、自宅への外出等も行いました。
- (3) 新たに介護用品を導入して、入所者の生活に余裕を持たせながら、職員の介護負担軽減に取り組み、働きやすい環境づくりに努めました。
- (4) 昼食バイキング、モーニングはもとより、季節にあわせてうなぎの日、流しそうめん、おせち料理等を提供して、四季の移り変わりを感じていただくことができました。
- (5) 定期的に外部研修に参加して、専門的な技術の習得や、知識の向上に努めました。また、施設内研修については、外部講師を招き介護職員のためのコミュニケーション技術を学び、施設全体のレベルアップを図りました。
- (6) 事故防止委員会では、事故報告書やヒヤリハット報告書を検証して、事故の再発防止に取り組みました。また、感染予防委員会では、施設内研修を開催して感染症の対策方法の周知や、万が一、発生した場合の対応を何度も繰り返しながら確認を行い、感染症の予防とまん延の防止に努めました。
- (7) 屋上庭園を活用して四季折々の野菜を育てながら、入所者とともに収穫を行い、心身の向上を図ることができました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 地域で開催される行事や祭礼等には、入所者とともに職員も参加して、地域との交流を図りました。また、施設で開催される介護の日や餅つきには、地域の方々が数多く参加され、特に夏祭りにおいては、過去最多の参加者となりました。
- (2) 実習生、職場体験、研修の受け入れを行いながら、福祉施設の役割を理解することで、次世代を担う人材の育成に努めました。
- (3) 各ボランティア団体の方と常にコミュニケーションを図りながら、お互いの信頼関係を構築して、ボランティア活動を行いやすい環境づくりに努めました。
- (4) フェイスブックに行事や施設内での生活の様子を定期的に掲載することで、遠方で生活している家族の方々に、フェイスブックを通じて元気に生活している様子を見てもらうことができました。

平成30年度平安の里短期入所生活介護事業所事業報告書

事業運営

1 利用状況（定員30名 通年営業）

- (1) 平均利用者数 28.5名（前年度 29.6名）
- (2) 稼働率 94.9%（前年度 98.9%）
- (3) 平均介護度 2.99（前年度 3.00）

2 地域交流事業

- (1) 行事関係 32回（ユニット内行事、運動会、新年会等）
- (2) 食事関係 19回（おやつ作り、バーベキュー、ビアガーデン等）

3 職員研修

- (1) 外部研修 31回 延べ人数26名
- (2) 内部研修 16回（身体拘束防止、感染予防、事故防止等）
- (3) 各種会議・委員会 198回（運営連絡会議、リーダー会議、ユニット会議等）

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 担当者会議に参加して、利用者の情報を収集しながら、残存機能を活かせるよう集団体操や、機能訓練を兼ねた外出を実施しました。
- (2) 季節の移り変わりを感じられるよう、花見や地域で開催される祭りへの外出や、施設内で開催される誕生日会を開催して、日々の生活の充実を図りました。
- (3) 新たに介護用品を導入して、利用者の生活に余裕を持たせながら、職員の介護負担軽減に取り組み、働きやすい環境づくりに努めました。
- (4) 松花堂弁当の提供や日々のおやつ作り、昼食づくり、バーベキュー等を実施して、利用中、活動的に過ごせるよう取り組みました。
- (5) 定期的に外部研修に参加して、専門的な技術の習得や知識の向上に努めました。また、施設内研修については、外部講師を招き介護職員のためのコミュニケーション技術を学び、施設全体のレベルアップを図りました。
- (6) 居宅介護支援事業所への定期的な訪問や介護支援専門員との連絡を密に図ることで、空き情報の提供や利用者、家族の要望を把握しながらサービスの提供に努めました。
- (7) 屋上庭園を活用して、四季折々の野菜を育てながら利用者とともに収穫を行い、心身の向上を図ることができました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 地域で開催される行事や祭礼等には、利用者とともに職員も参加して、地域との交流を図りました。また、施設で開催される介護の日や餅つきには、地域の方々が数多く参加され、特に、夏祭りにおいては過去最多の参加者となりました。
- (2) 実習生、職場体験、研修の受け入れを行いながら、福祉施設の役割を理解することで、次世代を担う人材の育成に努めました。
- (3) 各ボランティア団体の方と常にコミュニケーションを図りながら、お互いの信頼関係を構築して、ボランティア活動を行いやすい環境づくりに努めました。
- (4) フェイスブックに行事や施設内での生活の様子を定期的に掲載することで、遠方で生活している家族の方々に、フェイスブックを通じて元気に生活している様子を見てもらうことができました。

平成30年度老人デイサービスセンター平安の里事業報告書

事業運営

1 利用状況（定員30名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 27.0名 | （前年度 26.4名） |
| (2) 稼働率 | 90.0% | （前年度 88.0%） |
| (3) 平均介護度 | 1.87 | （前年度 1.83） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|-------------------------|
| (1) 行事関係 | 64回 | （マカナ、保育園児訪問、新川折り紙会等） |
| (2) 食事関係 | 27回 | （昼食バイキング、出張回転寿司、おやつ作り等） |

3 職員研修

- | | | |
|--------------|-----|--------------------------|
| (1) 外部研修 | 8回 | 延べ人数8名 |
| (2) 内部研修 | 2回 | （コミュニケーション技術、食中毒予防） |
| (3) 各種会議・委員会 | 72回 | （デイサービス会議、運営連絡会議、衛生委員会等） |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 居宅介護計画書に基づいて、目標が達成できるよう通所介護計画を立てながら実施、評価を行いました。また、新たに認知症加算を取得して、対象の利用者には認知症状緩和のための脳トレーニング、手先の運動、回想法等を行い、サービスの提供に努めました。
- (2) 身体状況に合わせた機能訓練のプログラムを実施、評価を行うことで、上下肢筋力の低下予防や維持向上に努めました。また、複数回行っている体操を発声しながら行うことで、活気と意欲の向上につなげることができました。
- (3) 行事ごとに、壁飾りや物品等を利用者同士が目標を持って制作することで、日常生活の意欲向上につなげることができました。また、おやつ作りを行いながら、利用者全員にコミュニケーションを図る場を提供して、達成感を味わえるよう努めました。
- (4) ヒヤリハット報告書を積極的に活用して、毎月のデイサービス会議でヒヤリハットの件数が多い事例について検討しながら、対策を講じて事故防止に取り組みました。
- (5) 居宅介護支援事業所や地域包括支援センターを定期的に訪問することで、空き状況を提供して、稼働率の向上に努めました。また、利用中の様子等を伝えながら、ケアマネジャーとの信頼関係の構築を図りました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 介護実習や職場体験等の受け入れを行うことで、デイサービスでの活動内容を説明しながら、福祉施設の役割を理解してもらえるよう努めました。また、職場体験では、中学生が利用者とともにレクリエーションに参加して、コミュニケーションを図る場となりました。
- (2) 福祉会だよりやフェイスブックを発信しながら、月間パンフレットを地域に配布することで、利用中の様子や活動内容を、家族や地域の方々に理解してもらうことができました。
- (3) 積極的にボランティアの受け入れを行いながら、事前に打ち合わせを行うことで、スムーズにボランティア活動を実施することができ、また、継続的に活動を行ってもらうことができました。
- (4) 定期的で開催される地域包括支援センター主催の研修に参加して、在宅医療の在り方を学ながら、他の在宅事業所と情報共有を行い、連携を図ることができました。

平成30年度西春日井福祉会居宅介護支援事業所事業報告書

事業運営

1 ケアプラン作成状況

| | | | |
|-----------|---------|------|----------|
| (1) 作成件数 | 2, 675件 | (前年度 | 2, 562件) |
| 予防委託件数 | 702件 | (前年度 | 690件) |
| (月平均) | 281件 | (前年度 | 271件) |
| (2) 平均介護度 | 2.10 | (前年度 | 2.12) |

2 相談受付状況

| | | | |
|---------|------|------|-------|
| (1) 全体 | 107件 | (前年度 | 161件) |
| (2) 地区別 | | | |
| ア 清須市 | 53件 | (前年度 | 81件) |
| イ 北名古屋市 | 46件 | (前年度 | 73件) |
| ウ 豊山町 | 4件 | (前年度 | 3件) |
| エ その他 | 4件 | (前年度 | 4件) |

3 新規契約・契約終了件数

| | | | |
|------------|-----|------|-------|
| (1) 新規契約件数 | 77件 | (前年度 | 129件) |
| (2) 契約終了件数 | 75件 | (前年度 | 73件) |

4 認定調査委託請求件数

| | | |
|------|------|-------|
| 251件 | (前年度 | 213件) |
|------|------|-------|

5 職員研修

| | | | |
|----------|-----|-------------------|------|
| (1) 外部研修 | 68回 | (延べ人数 | 73名) |
| (2) 内部研修 | 52回 | (月例会議12回、定期会議40回) | |
| (3) 各種会議 | 38回 | (チーム会議) | |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 利用者の自己決定を尊重したケアプランを、利用者本人や家族と一緒に考えながら作成し、住み慣れた環境で日常生活が継続できるよう支援しました。
- (2) 利用者本人や家族に寄り添い、必要に応じて介護保険外サービスの移送サービスや配食サービス、理美容等利用できるよう地域の社会資源の情報を提供しました。
- (3) 自己評価表を用いて定期的に職員各々が業務を自己点検し、改善や効率化を図りました。
- (4) 利用者の生活の一部を支える支援者として必要な知識を習得できるよう、年間の研修計画を作成し、積極的に研修に参加しました。また、研修で学んだ内容を事業所内の会議で発表し、事業所全体の資質の向上を図りました。
- (5) 家族介護者が抱えている悩みを傾聴し、介護負担が軽減できるよう、毎月の訪問以外でも電話相談に応じ、必要性があれば随時訪問し適切な対応を行いました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 地域ケア会議に参加し、地域包括支援センターや地域のサービス事業所との連携を深めました。以前から実施していた在宅の介護保険認定調査に加え、施設の介護保険認定調査を行い、行政機関との関係構築を図りました。
- (2) 各特別養護老人ホームのイベントに参加し、地域住民の方へ居宅介護支援事業所の業務について説明する機会を持ちました。
- (3) 医療と介護の連携を深めるため、入退院時は病院のソーシャルワーカーと連携を図り、在宅生活に支障がないよう支援しました。

平成30年度障害者支援施設尾張中部福祉の杜（施設入所）事業報告書

事業運営

1 入所状況（定員50名 通年営業）

- (1) 平均入所者数 48.7名（前年度 48.5名）
- (2) 稼働率 97.4%（前年度 97.0%）
- (3) 平均障害支援区分 5.11（前年度 5.08）

2 地域交流事業等

- (1) 行事関係 91回（夏祭り、記念祭、クリスマス会等）
- (2) 外出支援 425回（合同外出、ユニット別外出、喫茶等）
- (3) 食事関係 126回（行事食、調理実習、ご当地メニュー等）

3 職員研修

- (1) 外部研修 59回 延べ人数56名
- (2) 内部研修 32回（新人研修、全体研修、支援研修等）
- (3) 各種会議・委員会 356回（運営会議、ユニット会議、日中活動調整会議等）

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 人権委員会を設置し、適切な呼称の使用について点検し、検討結果を全体に周知しました。人権擁護の研修を実施し、人権意識の向上を図りました。
- (2) 健康委員会及び感染症対策委員会を設置し、利用者の健康状態の把握や職員の感染症に対する意識の向上を図りました。冬場にインフルエンザの感染がありましたが、予防薬の投与や活動制限を行い、感染の拡大を防ぎました。各ユニットで、夜間等の緊急時に適切な対応ができるよう研修を行いました。
- (3) 楽しみのある豊かな食生活を送るため、ご当地メニューや季節メニューを取り入れる等献立を工夫することで、食に対する興味関心が高まりました。
- (4) 安心安全な環境づくりのため防災・環境委員会を設置し、環境整備や設備の点検、補修を実施しました。また、総合防災訓練や、不審者侵入に備え防犯訓練を実施しました。
- (5) 楽しみのある豊かな生活づくりのため合同外出委員会を設置し、一泊旅行や外出を計画的に実施しました。事前会議に利用者が参加し、希望に沿った計画となるよう努めました。
- (6) 職員の支援力向上を図るため、外部研修では、自閉症支援や権利擁護の研修等へ計画的に派遣し、内部研修では、新人研修や全体研修等を実施しました。
- (7) 計画的に地域移行を進めていくため、共同生活援助事業の内部勉強会を実施しました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 地域の理解と支援に感謝し、交流を深めるため、「杜の記念祭」を開催しました。
- (2) 朝のラジオ体操の参加や近隣のお店を日常的に利用することで、地域の人と関わりを深めることができました。
- (3) 地域の施設理解を進めるために、施設広報誌杜のたよりやユニット通信、フェイスブック等を様々な視点で作成し、積極的に発信しました。
- (4) 地域の障害理解を深めるため、中学生の職場体験学習やボランティア活動を受け入れました。夏休みに福祉体験教室を開催し、地域の小学生が参加し、陶芸やビーズづくり、利用者との会話等で交流を深めました。また、障害者週間には、福祉映画の上映会や作品の展示販売等を行い、地域の方が障害を理解する機会を作りました。
- (5) 定期的な演芸ボランティアの来所の他、園芸や手芸等日常的な活動に個人ボランティアが多く参加されました。3月にボランティア交流会を開催し、感謝の気持ちを伝えるとともにボランティアの方から意見を聞く機会となりました。
- (6) 障害への理解を深めるとともに交流の場として、西春日井地域福祉の店やみずとぴあ庄内朝市へ出店し、地域の方々の好評を得ることができました。喫茶ギャラリーこもれびに情報コーナーを設置し、障害者福祉だけでなく高齢者福祉の情報も発信しました。

平成30年度障害者支援施設尾張中部福祉の杜（短期入所）事業報告書

事業運営

1 入所状況（定員10名 通年営業）

- | | | |
|--------------|-------|-------------|
| (1) 平均入所者数 | 8.6名 | （前年度 7.8名） |
| (2) 稼働率 | 86.0% | （前年度 77.8%） |
| (3) 平均障害支援区分 | 5.06 | （前年度 4.16） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|------|---------------------|
| (1) 行事関係 | 91回 | （夏祭り、記念祭、クリスマス会等） |
| (2) 外出支援 | 425回 | （合同外出、ユニット別外出、喫茶等） |
| (3) 食事関係 | 126回 | （行事食、調理実習、ご当地メニュー等） |

3 職員研修

- | | | |
|--------------|------|-------------------------|
| (1) 外部研修 | 59回 | 延べ人数56名 |
| (2) 内部研修 | 32回 | （新人研修、全体研修、支援研修等） |
| (3) 各種会議・委員会 | 356回 | （運営会議、ユニット会議、日中活動調整会議等） |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 家庭を離れる不安を軽減するために、できるだけ同じユニットや居室を用意し、一人ひとりに合った生活環境の提供に努めました。緊急入所や自宅で介護できない方の長期利用に対応し、大幅に稼働目標を上回ることができました。
- (2) 利用中の日中活動の事業所を、希望に応じて自由に選択する利用者が増加し、安心して生活を送ることができるようになりました。また、ユニットで楽しく生活を送るため、喫茶ギャラリーこもれびや近隣の店を利用し、余暇の充実を図りました。
- (3) 相談支援センターと連携し、サービスを必要としている地域の人に情報を届けることで、新規の利用者が増加しました。また、サービス利用中の利用者が日中に他事業所を利用することで、地域関係者とのつながりも深まりました。
- (4) 居室の一部を改修し、行動障害を有する利用者が安全に利用できるようにしました。しかし、他害行為があるため、複数の職員で対応せざるを得ない状況が続いています。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 家族の突然の病気、虐待等の緊急利用は優先して受け入れ、本人の不安や家族の負担の軽減に努めました。介護保険サービスだけでは支援が困難な高齢のケースも増加し、ますます関係機関との連携が必要となっています。
- (2) 懸案ケースは、相談支援センターや市町福祉課、社会福祉協議会等の関係機関と連携し、サービス担当者会議等に参加することで、利用者が安心して地域で生活できるよう努めました。しかし、事情により自宅に戻れない短期入所利用者の利用が長期になったため、他の利用希望に対応できないケースがありました。

平成30年度障害者支援施設尾張中部福祉の杜（生活介護）事業報告書

事業運営

- 1 利用状況（定員68名 月～土営業、日曜、年末年始6日を除く）
 - (1) 平均利用者数 65.7名（前年度 66.4名）
 - (2) 稼働率 96.7%（前年度 97.6%）
 - (3) 平均障害支援区分 4.46（前年度 4.99）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 91回（夏祭り、記念祭、クリスマス会等）
 - (2) 外出支援 425回（合同外出、ユニット別外出、喫茶等）
 - (3) 食事関係 126回（行事食、調理実習、ご当地メニュー等）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 59回 延べ人数56名
 - (2) 内部研修 32回（新人研修、全体研修、支援研修等）
 - (3) 各種会議・委員会 356回（運営会議、ユニット会議、日中活動調整会議等）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 計画相談と連動し、本人のニーズに即した個別支援計画を作成しました。モニタリングを実施し、支援内容の評価を行い、概ね本人のニーズに沿った支援ができたことを確認しました。また、利用者自身が活動材料の購入に出かける機会や委託業者への納品を行う等、活動意欲を高めるように努めました。
 - (2) 喫茶ギャラリーこもれびでは、利用者が接客や清掃等の活動に参加しました。来店者から声をかけていただく等の交流をとおして、活動への意欲が高まりました。
 - (3) 職員の支援力向上を図るため、外部研修では、自閉症支援や権利擁護の研修等へ計画的に派遣し、内部研修では、新人研修や全体研修等を実施しました。
 - (4) 身障部門利用者の転居や施設入所による退所後の補充ができなかったため、稼働目標を達成できませんでした。特別支援学校の実習を受け入れ、今後の利用につなげる努力をしています。
 - (5) 健康委員会及び感染症対策委員会を設置し、利用者の健康状態の把握や職員の感染症に対する意識の向上を図りました。
 - (6) 安心安全な環境づくりのため防災・環境委員会を設置し、環境整備や設備の点検、補修を実施しました。また、総合防災訓練や、不審者侵入に備え防犯訓練を実施しました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 地域の理解と支援に感謝し、交流を深めるため、「杜の記念祭」を開催しました。
 - (2) 朝のラジオ体操の参加や近隣のお店を日常的に利用することで、地域の人と関わりを深めることができました。
 - (3) 地域の施設理解を進めるために、施設広報誌杜のたよりやユニット通信、フェイスブック等を様々な視点で作成し、積極的に発信しました。
 - (4) 地域の障害理解を深めるため、中学生の職場体験学習やボランティア活動を受け入れました。夏休みに福祉体験教室を開催し、地域の小学生が参加し、陶芸やビーズづくり、利用者との会話等で交流を深めました。また、障害者週間には、福祉映画の上映会や作品の展示販売等を行い、地域の方が障害を理解する機会を作りました。
 - (5) 定期的な演芸ボランティアの来所の他、園芸や手芸等日常的な活動に個人ボランティアが多く参加されました。3月にボランティア交流会を開催し、感謝の気持ちを伝えるとともにボランティアの方から意見を聞く機会となりました。
 - (6) 障害への理解を深めるとともに交流の場として、西春日井地域福祉の店やみずとぴあ庄内朝市へ出店し、地域の方々の好評を得ることができました。喫茶ギャラリーこもれびに情報コーナーを設置し、障害者福祉だけでなく高齢者福祉の情報も発信しました。

平成30年度障害者支援施設尾張中部福祉の杜（地域活動支援センター）事業報告書

事業運営

- 1 利用状況（定員20名 月～土営業、日曜、年末年始6日を除く）
 - (1) 平均利用者数 0.1名（前年度 0.13名）
 - (2) 稼働率 0.6%（前年度 0.7%）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 外出や入浴支援、レクリエーション等、本人の希望に沿った活動を提供しました。平日の利用がないため、稼働目標を達成できませんでした。
 - (2) 離職者等の支援については、対象者がありませんでした。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 生活介護を利用できない人を対象に、本人のニーズに沿った活動の場を提供し、生活に楽しみと潤いを持つことができました。
 - (2) 関係機関と連携し、虐待による緊急受け入れでの利用がありました。

平成30年度障害者支援施設尾張中部福祉の杜（日中一時支援）事業報告書

事業運営

- 1 利用状況（定員5名 月～土営業、日曜、年末年始6日を除く）
 - (1) 平均利用者数 2.9名（前年度 3.6名）
 - (2) 稼働率 59.0%（前年度 71.0%）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 一時的な見守りだけでなく、外出支援や創作活動等の余暇活動を行い、生活意欲の向上を図りました。日中一時支援から生活介護へ利用変更となった利用者がいたため、稼働目標を達成できませんでした。
 - (2) 長期休暇（春休み、夏休み、冬休み）中、在宅障害児の日中活動の場所を日中一時支援事業で提供し、地域生活の充実を図ることができました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 平日他事業所を利用している人を土曜日に一時的に受け入れ、家族の介護負担の軽減を図ることができました。
 - (2) 複数サービスを利用しているケースや支援困難なケースについて、地域関係機関と連携を図りながらサービスを利用する機会を設けました。強度行動障害の困難ケースについては、施設設備や人員配置等の受け入れ体制について検討しながら、施設全体で協力して受け入れました。

平成30年度相談支援センター尾張中部福祉の杜事業報告書

事業運営

1 利用状況（年末年始を除く通年営業）

| | | | |
|----------------|--------|------|---------|
| (1) ケアプラン | 3件 | （前年度 | 9件） |
| (2) 障害支援区分認定調査 | 40件 | （前年度 | 19件） |
| (3) 電話相談 | 373件 | （前年度 | 596件） |
| (4) 来所相談 | 367件 | （前年度 | 417件） |
| (5) 訪問相談 | 406件 | （前年度 | 343件） |
| (6) 計画相談 | 218件 | （前年度 | 187件） |
| 総計 | 1,407件 | （前年度 | 1,571件） |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 利用者や家族の意思及び人格を尊重し、常に利用者や家族の立場に立って、公正中立な相談支援を行うよう努め、充実した生活を送ることができるように支援しました。市町福祉課と連携し、サービス等利用計画を作成し、モニタリング等で検証しました。また、市町委託の基本相談として日常的な困りごとの相談を受け、見守りをし、地域での生活の安定につなげることができました。
- (2) 尾張中部福祉圏域障害者支援協議会の事務局として、運営会議や交流会、日中系事業所部会、訪問系事業所部会を開催し、地域関係者の連携を深めることができました。また、尾張中部福祉圏域障害者支援協議会相談支援部会に参加し、情報交換やテーマを決めて関係機関の方を講師に招いての勉強会、B型事業所利用に係る就労アセスメントの取扱いについて特別支援学校も交えて検討を行い、他事業所との連携を深めるとともに、相談支援専門員の力量向上を図ることができました。
「障害者支援を考えよう勉強会」を開催し、地域関係者の障害の理解を図るとともに、連携を深める場となり、相談支援体制の強化につなげることができました。
- (3) 愛知県障害者相談支援体制整備事業を受託し、地域アドバイザーとして、関係機関の会議等で助言し、圏域の障害者支援協議会の活性化及び相談支援体制の充実を図ることができました。
- (4) 地域の親グループ活動に参加し、助言を行うとともに、圏域の障害児者を持つ親の交流会を他の相談支援事業所の協力を得て実施し、親グループ活動の活性化を図ることができました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 地域交流の場として交流ホールや多目的室を、障害児者親グループや地域住民の活動に利用していただき、交流の場を提供することができました。
- (2) 障害者情報を発信するため、情報紙「杜の風だより」と支援協議会だより「地域の風・絆」を毎月発行し、地域関係者に配布し、地域の状況や新しい情報を得ることができたと好評でした。
- (3) 西春日井地域福祉の店や喫茶ギャラリーこもれびで展示販売するだけでなく、情報紙を置く等、相談支援を含めた情報を発信することができました。

平成30年度訪問介護支援センター尾張中部福祉の杜事業報告書

事業運営

○居宅介護事業

1 利用状況（年末年始を除く通年営業）

- (1) 利用者数 169名（前年度 180名）
- (2) 延利用時間 1,085.5時間（前年度 1,094.8時間）

○行動援護事業

1 利用状況（年末年始を除く通年営業）

- (1) 利用者数 87名（前年度 87名）
- (2) 延利用時間 493.5時間（前年度 567.5時間）

○重度訪問介護事業

1 利用状況（年末年始を除く通年営業）

- (1) 利用者数 32名（前年度 30名）
- (2) 延利用時間 459.0時間（前年度 449.0時間）

○移動支援事業

1 利用状況（年末年始を除く通年営業）

- (1) 利用者数 663名（前年度 656名）
- (2) 延利用時間 6,126.5時間（前年度 6,270.0時間）

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 利用者や家族の意向を聴取し、了解を得ながら、ニーズに即した計画を作成しました。
- (2) 男性利用者が多いため、男性ヘルパーの確保に努めましたが新規の採用はなく、十分には要望に応えられませんでした。
- (3) 利用者や家族から、サービスについて直接聞き取り調査を行い、満足度を把握し、より良い支援となるよう努め、利用者の希望に沿う支援ができました。
- (4) ヘルパー会議や地域部門会議でケース検討を行ったり、所内のインシデント研修や行動観察研修に参加し、ヘルパーのスキルアップを図りました。また、障害者支援を考えよう勉強会や障害者支援協議会の訪問系事業所部会に参加し、他の事業所と交流を図るとともにスキルアップを図りました。
- (5) ヘルパー業務に支障のない範囲でサービス担当者会議に出席し、相談支援事業所及び地域関係者との連携を図ることができました。また、懸案事例については関係機関と密に連絡調整を行いました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 訪問介護支援センターに関する情報を、情報誌等で発信する機会はありませんでした。